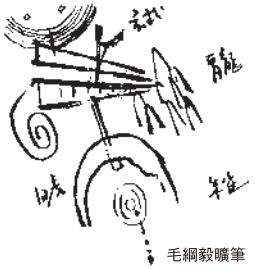
ヨーロッパのガラスの都ヴェネチアをお手本に「能登島でガラスを」と、1984年にガラス工房が誘致され、1991年にはガラス芸術の情報発信基地として美術館が建設されました。

美術館の設計者は、毛綱毅曠【もづなきこう】（北海道釧路市出身1941年−2001年）氏。建物は四神相応（東に青竜、西に白虎、南に朱雀、北に玄武）をもとに四神を象徴する棟を四方に配した構造で、外観は宇宙基地のようなデザインになっています。

収蔵品には、中国清朝時代のガラス工芸品や、ピカソやシャガールなどの20世紀の芸術家たちのデザインにもとづいてヴェネチアで制作されたガラス造形作品、ダリがドーム社と共同制作したガラス作品、国内外の現代作家の作品などがあります。

収蔵品展をはじめ、ガラスに関する展覧会を年に数回開催しています。



毛綱毅曠筆

開館時間　4月〜11月　午前9時〜午後5時　（入館は午後4時30分まで）
12月〜3月　午前9時〜午後4時30分　（入館は午後4時まで）

休館日　毎月第3火曜日（祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月29日〜翌年1月1日）、展示替え・館内整備期間

観覧料　展覧会によって異なります。
※割引や減免についての詳細はホームページをご覧ください。

交通案内

【車の場合】
金沢方面から／「のと里山海道」徳田大津JCTから「能越自動車道」七尾方面へ、和倉ICで降り約20分。
富山方面から／「能越自動車道」七尾城山ICから和倉温泉方面へ、和倉ICで降り約20分。

【電車・バスの場合】
JR和倉温泉駅から能登島交通「のとじま臨海公園ゆき」バスに乗車、約30分。「美術館前」下車すぐ。
※バスの時刻表ならびに料金については
能登島交通㈱（TEL.0767-85-2130）へお問い合わせください。

【飛行機の場合】のと里山空港から車で約1時間。

石川県能登島ガラス美術館

〒926−0211 石川県七尾市能登島向田町125−10
TEL.0767−84−1175　FAX.0767−84−1129
URL　https://nanao-af.jp/glass/

石川県能登島ガラス美術館
NOTOJIMA GLASS ART MUSEUM

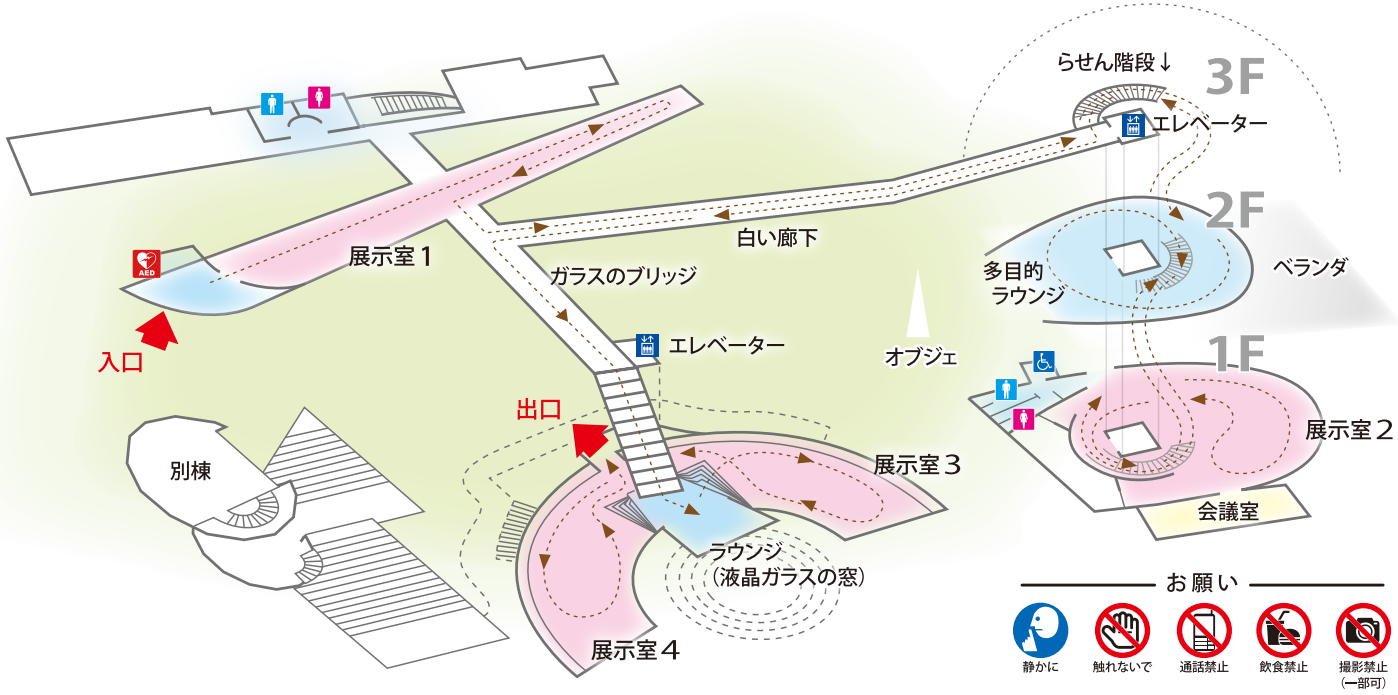
「巡り合い−恋人たち」エジディオ・コスタンチーニ（ジョルジュ・ブラックのデザインにもとづいて）1954年

展示室1

扉のそばに立ち展示品をながめると、奥までが長く見えます。奥に進むほど天井が低くなり横幅が狭くなるので、実際の奥行きは見た目より短いことに気づくでしょう。
天井の丸窓には美術館の設計図が描かれています。
展示台の下は、ガラスの原料の珪砂(けいしゃ)が吹きつけてあります。

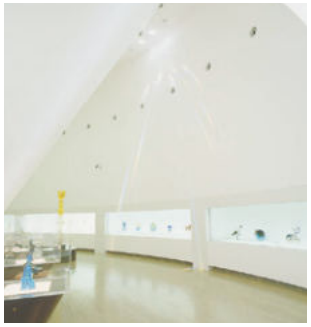
ガラスのブリッジ

傾斜した天井とガラス壁のため、直立していても斜めに立っているような錯覚を覚えます。
窓ガラスの水玉模様は奥に進むほど小さくなります。
黒光りする手すりには、石川県の伝統工芸にちなみ漆塗りが施されています。



お願い

静かに　触れないで　通話禁止　飲食禁止　撮影禁止（一部可）



展示室3、4

天井にプリズムが取り付けられており、5月から8月までの晴れた日には、展示室内に虹色の光が差し込む自然の演出が楽しめます。

ラウンジ

階段両脇のガラスには、雲がデザインされており、天候や季節によって館内の様子が刻々と変化することを象徴しています。
赤い格子窓近くの床に足形があり、その上に立つと白い窓ガラスが透明に変わります。ガラスとガラスの間に液晶がはさみこまれており、電流が流れると透明に変化します。

展示室2

3Fから1Fまで吹き抜けの空間となっています。天井からつるされた赤い網状のオブジェは、能登の朝夕の太陽光に染まった雲がモチーフになっています。
1F展示室に降りるらせん階段の手すりの柵はリズミカルな間隔で配されています。
エレベーターは、ガラス張りで中の構造を見ることができます。
1F展示室の中央付近にある飾り柱には石川県の伝統工芸「九谷焼」のカラフルな陶片がはりつけられています。

収蔵品の紹介

「おどけたフクロウ」
エジディオ・コスタンチーニ
(ピカソのデザインにもとづいて)
1962年

「青地黄被花鳥文瓶」
中国(清朝)
18世紀

シンボルモニュメント「蔵」
藤田喬平
1997年

「黄色饕餮文平壺」
中国(清朝)
18世紀

「Ultimo Danza Serena」
トゥーツ・ジンスキー
2000年

＊展示作品は変更する場合があります。

世界的にも珍しいガラス作品だけを展示する庭園。作品は日本を代表するガラス造形家たちによるもの。能登の海を背景に四季折々に変化するガラス作品のきらめきをご覧ください。